

VOL.34 2015 AUTUMN



表紙：ムルデル記念通り（運河駅東口歩行者専用通路）※ムルデルとは、運河建設に貢献したオランダ人技師のこと。

新任助教のご挨拶



野秋 政希 (のあき まさき)



鈴木 賢人 (すずき けんと)

1984年 静岡県三島市生まれ
2007年 東京理科大学・理工学部卒業
2007年～2009年
長谷工コーポレーション (施工管理)
2009年～2013年
東京理科大学 総合研究機構
火災科学研究センター・技術者
2013年～2015年
東京理科大学大学院・国際火災科学研究科
博士課程, 博士 (工学)
2013年～2014年
建築研究所・非常勤職員
東京理科大学 総合研究機構
火災科学研究センター・RA
2014年～2015年
日本学術振興会・特別研究員 (DC)
2015年～東京理科大学・大宮研究室 助教 (現職)

私の経歴からお分かりになる通り、大学1年生から現在に至るまでの大半が東京理科大学に関係しており、このような場でOB・OGの皆様方にご挨拶できることを大変光栄に思います。

私の専門分野は火災安全工学です。2009年の火災科学研究センターの技術者から2014年度の学位審査を経て現在に至るまで大宮先生のご指導の下、研究活動を行ってまいりました。

博士論文の研究テーマは、木材の基礎的な炭化性状・燃焼性状と散水による可燃物の燃焼抑制効果でした。どちらの研究も過去から数多くの研究がなされていますが、未だ未解明な部分が多いのが現状です。これは、研究の奥深さもさることながら、意匠、構造、設備などのいわゆる建築のメジャーな分野にくらべて建築火災安全・防火に対する社会的な関心が薄く、研究者が少ないことが一因と考えられます。

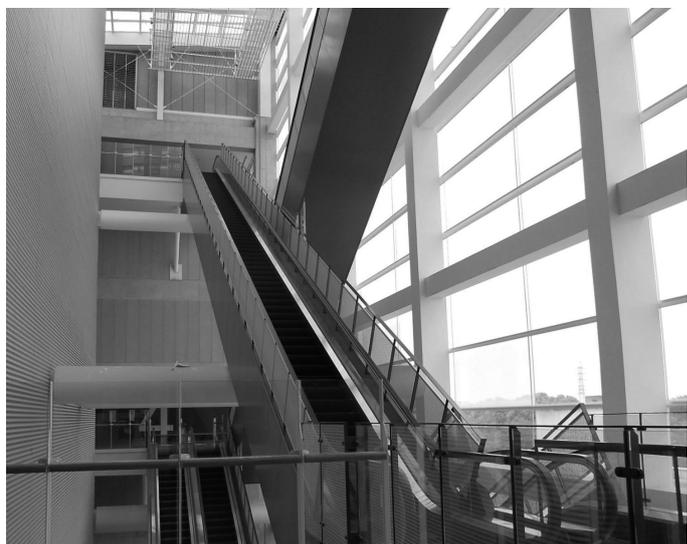
東京理科大学は国内の大学では最大規模の火災に特化した実験施設を有しております。OB・OGの皆様とのつながりを持つことで様々な方に関心を持っていただき、こうした施設をさらに活用し、建築火災安全・防火が発展できることを願っております。今後ともご指導・ご鞭撻の程お願いいたします。

1986年 静岡県静岡市生まれ
2010年 工学院大学・工学部卒業
2012年 東京工業大学大学院・総合理工学研究科・修士課程修了
2015年 東京工業大学大学院・総合理工学研究科・博士課程修了, 博士 (工学)
2012年～2015年
日本学術振興会・特別研究員 (DC)
2015年～
東京理科大学・永野研究室 助教 (現職)

はじめまして。今年度から永野研究室の助教に着任しました、鈴木賢人と申します。専門は木質構造で、これまでは主に木質架構の振れ振動に関する研究に取り組んできました。

立場が「学生」から「教員」に変わったことで、自身の研究活動だけでなく大学や研究室の運営、教育という役割が増え、加えて、私自身が他大学出身ということで、理科大の空気感や教育に関する風習等、知らないことが多いため、これまでとは違う大学での生活に少し戸惑いつつも、新鮮で楽しい日々を過ごしています。また、理科大について「知らない」ということを活かし、これまでの理科大の良いところは残しつつも新風を吹かせてやろうと、秘かに企んでいます。

研究者・教員として、まだまだ未熟で至らない点が多い私ですが、OB/OGの皆様方のご指導ご鞭撻を頂けたら幸いです。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



退任助教のご挨拶



遠田 敦 (えんだ あつし)

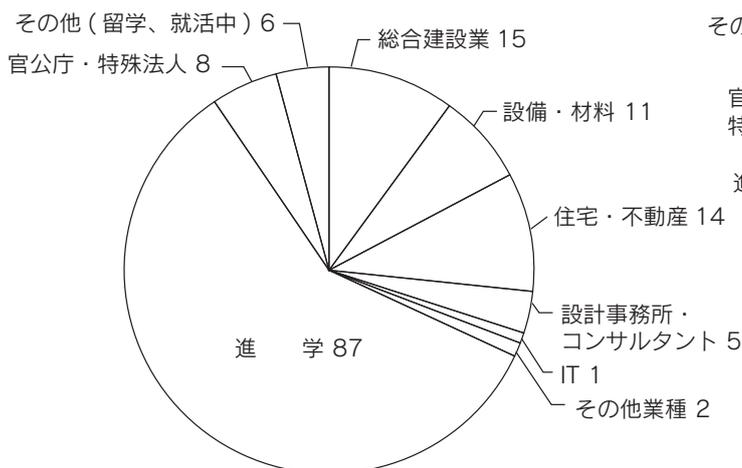
2003年 早稲田大学 理工学部 建築学科 卒業
 2005年 早稲田大学大学院 理工学研究科 建築学専攻 修士課程 修了
 2007年 早稲田大学 理工学研究所 助手
 2009年 博士 (建築学) 早稲田大学
 2010年 東京理科大学 理工学部 建築学科 助教
 2015年 日本大学 生産工学部 創生デザイン学科 助教

春、利根運河沿いの黄色い菜の花、桜並木、新入生の足音と揺れるふれあい橋、中庭の新歓ライブ、混み合う講義棟のエスカレータ、4年生の研究室配属、あつという間に半袖。梅雨、湿る配付資料、人が減り始める教室、早期梅雨明けへの祈り。初夏、定期試験、レポート採点、卒論中間発表。盛夏、実験、もしくは実験準備、炎天下の実験棟と MakMax、建築学会大会、それに付随した車中泊の旅とフィールドワーク。秋、色づき始める桜並木の葉の色、薬学棟まわりの銀杏並木、続く研究生室での実験、卒論発表と卒計の始まり、熱を帯び始める助教業務。晩秋、運河を抜けはじめる冬の風、そろそろ長袖。冬、はじまるブースイン、終わらない実験、減り始める4年生の帰宅回数と増える宿泊届。新年、中間発表、センター試験、試験監督、入学試験、試験監督、あつという間に卒修論の発表会と卒修計の講評会、打ち上げ、製本、新年度準備、人のいない研究室。空の色が青から水色に変わり鼻がムズムズしはじめて感じる、春。

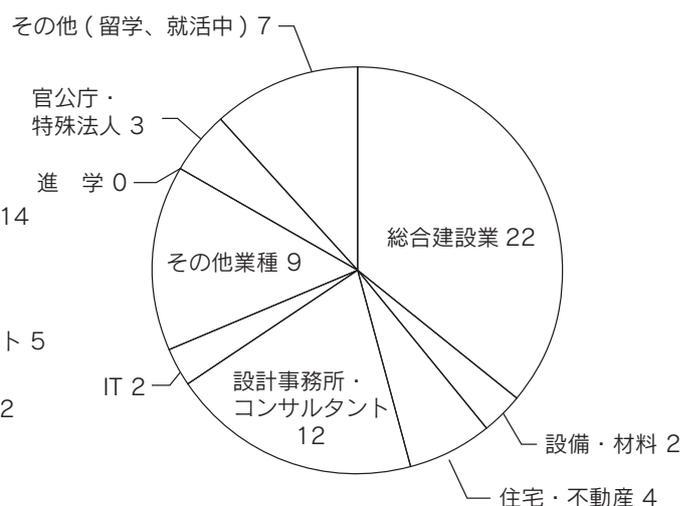
振り返れば多くの楽しい学生さんと愉快的助教仲間、すばらしい先生方と一緒にさせていただいた5年間でした。理科大での思い出と経験を糧に、これからの研究教育活動を充実させ、いつかみなさまに恩返しができる日を迎えられるように努めてゆきたいと思っています。

2014年度 卒業生就職先

学部卒業生 (149名)



大学院修了生 (61名)



卒業設計賞受賞者紹介

受賞名：最優秀賞

作品名：「北国に建つ」

受賞者：吉尾真香（安原研究室）



作品紹介

雪の降る、寒い北国。北国に暮らす人々は寒さから身を守るため多くの時間を建築の内部空間で過ごす。しかし建築は寒く厳しい外部空間に積極的に開いていくことができず、風通しや採光がとれなく、内部空間の充実化が困難であるという矛盾を抱えている。そんな矛盾に対して、きもちのよい内部空間を諦め、光の入らない地下空間や、均質な空間の連続である巨大な積層建築の中にももってしまうという合理的解決をとっている札幌の都市において、本卒業設計では、北国における建築の在り方を計画・提案する。涼しくて過ごしやすい夏はかわいたきもちのよい風を感じ、寒く厳しい冬は弱い光が降り注ぐ静かなあたたかい空間。人々はたとえ吹雪の日であっても建築の中をまるで公園のように散歩する。それは、北国の新しい風景。

受賞コメント

自分が生まれ育った札幌で、札幌のために考えた建築を4年間の集大成としての卒業設計で設計でき、それに対し評価をいただけたことがとても嬉しいです。学部の3年生の頃から、本州の気候と異なる北海道では違う建築の建ち方の提案が出来るのではないかと考えていました。しかしテーマは明確に決まっていたものの、具体的な形態やデザインが提出の2週間前まで決まらず、苦しい時期もありました。しかし、やりたいことをやりきろう、と肩の力を抜き、走りきることができたように感じ

ます。未熟な案ですが、この先もブラシアップして、今後の自分の設計活動につなげていきたいです。指導していただいた安原先生、講師の方々、先輩、同期、後輩に感謝しています。



受賞名：優秀賞

作品名：「淀橋のビル」

受賞者：大村高広（岩岡研究室）

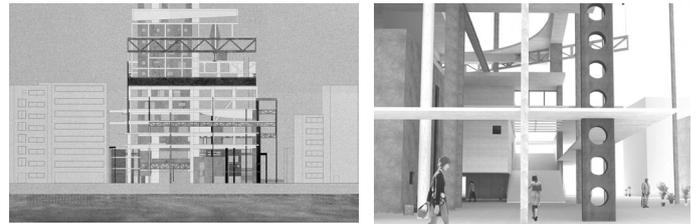


作品紹介

現存するタワーマンションの代替案。設計の中でまず第一に考えたのは、類型化し制度化した架構形式を解体・再構成することだった。プロセスとしてとったのは、与件に基づいて一度仮定したストラクチャーを局所的に読み変えていく、“誤読”していく、というものである。異なる架構形式が生々しくハイブリッドされたこの建築は、力学的・経済的合理に簡単に収斂しないような建築の架構のあり方と、高層建築と都市との関係における新たな合理性を示している。

受賞コメント

自分の考えがどこまで伝わるのか、そして共感されるのかということには全く自信がなかったため、このような賞をいただけるとは思ってもよらぬことでした。今年の卒業設計講評会は10時間にも及ぶ長丁場で、先生方により様々な方向からの議論がなせられ、結果として多くの作品が、作者の想定を超えたところからの魅力をも引き出された場になっていたのではと思います。このような議論の場は学外の講評会などでは得られないもので、作者だけではなく、作品にとっても大変幸福な時間でした。この場をお借りしまして、このような場を用意してくださった先生方、指導して下さった岩岡先生、柄沢先生、横尾先生、そして的確なアドバイスとサポートをしてくれた同期の仲間、先輩方に深く感謝申し上げます。



受賞名：優秀賞

作品名：「或る谷の表象」

受賞者：國分元太（山名研究室）

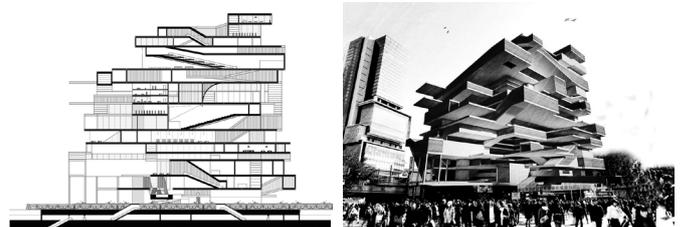


作品紹介

時と共に増築を繰り返した渋谷駅の複雑な空間は、もはや渋谷の街のコンテクストになっている。再開発によって駅地上部分に建てられる超高層に対し、地下の複雑性を地上に延長させ、渋谷の人々の多様なアクティビティを誘発する建築を構想する。渋谷駅の空間は、サイン計画などによって目的地への単純化された一本の経路として人々に経験される。渋谷駅はそのような一本の経路の集合体であると考え、既存地下動線をトレースし、地上部分へ引き上げる。複雑な地下動線を下敷きにした建築は、地下から連続し、渋谷の人々の様々なアクティビティを吸い上げる。

受賞コメント

「卒業設計だから」という勢いに身を任せつつ、テーマ設定からプレゼンまですべて自分に正直にやりきれたことを嬉しく思います。そうしてできた作品を評価して頂けたことを光栄に思います。提出まで自問自答を繰り返しながら建築と向き合った三ヶ月をこれからの自分の基礎とし、今後とも精進していきたいと思います。指導いただいた山名先生、先輩方、後輩、同期の仲間々に感謝致します。ありがとうございました。



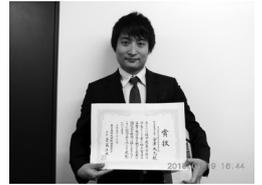
NAA 賞受賞者紹介

受賞名：NAA賞
 作品名：「プロジェクション
 マッピングの四次元体験」
 受賞者：會澤大志（川向研究室）



受賞コメント

映像という質量の存在しないものに対して建築の論文を書く事が非常に難しく悩んだ時期も多かったが、とにかく実践してみる事と提案を重ね、ブラッシュアップする事により形にしていくことが出来た。デジタルという拡張性のあるものが伝統的な建築と混ざり合っていくことは世界的に今後大きなテーマとなる事は確実であり、その可能性について研究する事が出来た。学生個人で出来る事が限られていても世の中には様々な分野のプロフェッショナルがおり、建築の世界のみに囚われず、その人達と共にチームとして協力していく事で様々な可能性が待っている。テクノロジーと建築の融合の可能性の最前線でこの考えを進化させ、建築の未来を探っていきたいと思います。NAA 賞という素晴らしい賞を頂きありがとうございました。



作品紹介

近年プロジェクションマッピングという映像手法が流行している。またこれを応用し、様々な所で活用しようと研究が盛んに行われている。昔の人が空間を遠近法ではなく、レイヤーにより認識していたのではないかという考えを元に、それを建築の実空間の新たな表現方法として使用できないかと研究したのがこの論文である。またこれを実際に小布施町で行い、その効果を確認すると共にまちづくりの方法としての提案を行っている。



平成 26 年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻各賞受賞者リスト

	名称		研究室	該当者	表題
学 部	卒業論文賞 (一般コース)	優秀	安原研	佐藤秀, 杉浦菜花, 村松かなえ, 吉尾眞香	被災地における小さな公共スペースの調査・分析
	卒業論文賞 (通年コース)	最優秀	川向研	齋藤澄香, 鈴木崇平, 元井文子, 柳尚希	近世小布施の水のネットワーク ~絵図と地形の分析を通して~
		最優秀	兼松研	江村紀文, 後藤康宏	実構造物調査に基づく超高層建築物の劣化性状に関する研究
		優秀	井上研	遅沢亮政, 森田舟哉	ZEH 実現のための空気式太陽熱集熱システムを用いた戸建住宅に関する研究
		優秀	吉澤研	大西幸直	白色 LED 照明を用いた美術館照明手法の検討 一分光特性と文化圏の違いを考慮した油彩画の見えの評価一
		優秀	北村研	永野正太郎	繰り返し引張荷重を受ける合成梁縮小試験体の自由振動実験
	卒業設計賞	最優秀	安原研	吉尾眞香	北国に建つ
		優秀	岩岡研	大村高広	淀橋のビル
		優秀	山名研	國分元太	或る谷の表象 -Representation of a valley-
	学業優秀賞	1 位	吉澤研	田中優美	
		2 位	北村研	佐藤弦太	
3 位		安原研	森島英子		
大学院	修士設計賞	最優秀作品	安原研	林拓真	植物か建築
		優秀作品	岩岡研	近藤洋一	基礎となる建築と拡散する建築
		優秀作品	川向研	中山由稀	連続性~異なる3つのプロジェクトを通して~
	修士研究奨励賞	最優秀賞	井上研	村上雄飛	節湯型シャワーヘッドの省エネルギー効果に関する研究~実使用を想定した被験者実験による検討~
		優秀賞	北村研	木下貴博	強震観測に基づく免震構造の上下応答解析モデルの検証と地盤との動的相互作用の簡易評価法
		優秀賞	衣笠研	豊田陽平	東北地方太平洋沖地震により非耐力壁が損傷した SRC 造建物の損傷・修復性評価
共 通	NAA 賞		川向研	會澤大志	プロジェクションマッピングの四次元体験

「OB リクルーターと語る会」が開催されました

大宮研究室 助教 野秋 政希

6月10日（水）にOBリクルーターと語る会が実施されました。今回は、2名の講師（理科大のOBリクルータ）をお招きし、主に就職関連に関してご講演いただきました。

一人目の講演者は、前田建設工業株式会社の渡邊義隆様です。前田建設工業の建築事例や年収、残業時間等に至るまで包み隠さずお話しいただきました。また、建築業界が置かれている現状に関する話も多く、学生は真剣に耳を傾けていました。

一方、講演中に問題を投げかけたり、グループ会社である前田製作所のかにクレーンのトミカについてお話しいただくなど、学生にとっては終始聞きやすいご講演だったのではないかと感じました。

次に、東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）の田中透一様にご講演いただきました。初めに、田中さん自身が就職活動でどのようなことをされていたのか、その中でもどんなことが良い結果につながったか、などについてお話をいただくとともに、会社に入る前と入った後の印象の違い、仕事のやりがいなどについてもご説明いただきました。メモを取る学生も多々見られました。その後、JR東日本の建築業務を現在進行中のプロジェクトの紹介を踏まえながらわかりやすくご説明いただきました。

今回は、ご講演者が比較的學生と年齢が近く、近年學生から人気の高い業界であることもあり、40名程度の學生が集まり、立ち見が何人か出るほどの盛況ぶりでした。懇親会も多くの學生が参加し、大変良い交流の時間が持てたと考えています。



講演の様子（渡邊義隆 様）



講演の様子（田中透一 様）



講演を聴く学生の様子



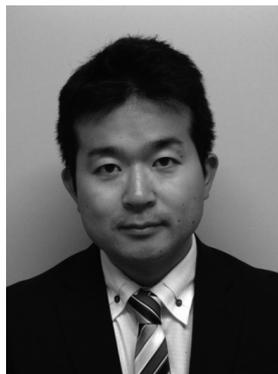
懇親会の様子（会長挨拶）

<講師のプロフィール>



渡邊 義隆
(わたなべ よしたか)

1978年 埼玉県生まれ
2004年 東京理科大学大学院理工学研究科（北村研究室）修了
現在の所属 前田建設工業株式会社 建設事業本部 構造設計
信 条 無駄の中に有益がある。



田中 透一
(たなか とういち)

1979年 兵庫県生まれ
2005年 東京理科大学大学院理工学研究科（大宮研究室）修了
現在の所属 東日本旅客鉄道株式会社 東京工事事務所 渋谷ターミナル課
信 条 すべてに感謝

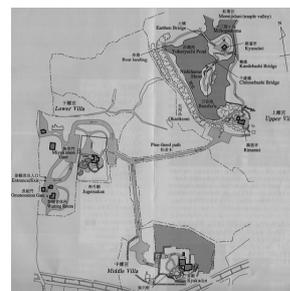
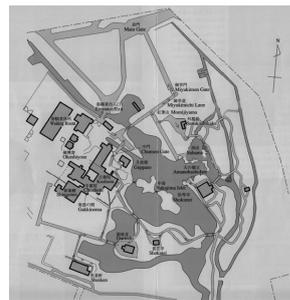
5月のゴールデンウィーク前後を使って京都・奈良方面に夫婦で旅行をするようになって今年で3年目になる。過去には数多くの寺社に足を運んだが、今年にはなかなか訪れることが出来ない桂離宮と修学院離宮をメインに訪れた。両宮とも宮内庁へ3カ月前にインターネットから応募し予約を取った。

桂離宮は回遊式庭園と数寄屋風の純日本風建築物とで構成されている。苑路を進むと池は全く無くなったり、眼前に洋々と広がったり、知らないうちに高みにあったり、水辺にあったりしてその変化に驚く。作庭にあたり小堀遠州は直接関与してないようだが、庭園、建築ともに彼好みの技法が随所にある。また、古書院は書籍・雑誌等で桂離宮の代表建築物であり、落ち着いた佇まいを見せていた。

比叡山の麓、東山連峰の山裾に造られた修学院離宮は、明治期に宮内省の所管となるまでは離宮を囲む垣根も全周にはなく、自然に対して開放された山荘であった。下離宮には庭園に囲まれた寿月観(じゅげつかん)が今なお残り、中離宮には楽只軒(らくしけん)と客殿があり、修学院離宮の本領である上離宮は、谷川を堰き止めた浴龍池(よくりゅうち)と呼ぶ大きな池を中心にした回遊式庭園になっていた。

一昨年はウインドブレーカーを着るほどの寒さであったが、今回は30℃を超える暑さであり、おまけに修学院離宮は見学路が3キロの道のりで日陰が少ないこともあり、還暦を過ぎた夫婦には十分すぎる運動であった。参観のメンバーには、我々よりも10才以上年上で杖を突いた方も居て比較的早い移動速度に戸惑っておられた。インターネット等の情報に少しでも現地の状況が分かる内容があればと感じた。来年は事前の情報を集め、年齢相応の旅行をしたいと思った。

(原文を一部編集し、承諾の上掲載しています)



2015 年度 NAA メールマガジン担当者の紹介

研究室名	学 年	氏 名	研究室名	学 年	氏 名	研究室名	学 年	氏 名
伊藤研	B4	柴田 史奈	兼松研	B4	関根麻里子	永野研	B4	佐藤 航平
	M1	宋 歆月		M1	小山 拓		M1	成島 慶
	M2	神田 夏子		M2	猪瀬 亮		M2	天藤 潤一
井上研	B4	粟 誠悟	川向研	B4	坂野 竜朗	安原研	B4	原 彩乃
	M1	小林 晃大		M2	高橋 航		B4	半澤 薫
	M2	由井 智輝		M2	上原 雄貴		M1	林山 赳大
岩岡研	B4	曾我 章吾	北村研	B4	小川 晋平	山名研	B4	中村 遥
	M1	江間 匠太		M1	原 憲治		M1	笠原 峻
	M2	蔡 華溢		M2	有間 雄太		M2	石田 裕也
大宮研	B4	高橋 京平	衣笠研	B4	雨宮 彰弘	吉澤研	B4	森 知史
	M1	鶴澤 陵麿		M1	月俣 慶彦		M1	田中 優美
	M1	佐藤 拓		M2	池田 智紀		M2	安益 圭祐
	M2	種子田翔一						

メールマガジンは野田建築会の公式サイトから申し込むことができます。

<http://www.rikadaikenchiku.com>

○ 新任助教挨拶	野秋政希 鈴木賢人	P02
○ 退任助教挨拶	遠田敦	P03
2014 年度 卒業生就職先		
○ 卒業設計賞受賞者紹介	吉尾眞香 大村高広 國分元太	P04
○ NAA 賞受賞者紹介	會澤大志	P05
平成 26 年度 理工学部建築学科・理工学研究科建築学専攻各賞受賞者リスト		
○ 「OB リクルーターと語る会」が開催されました	野秋 政希	P06
○ 京都・奈良旅行	瀬沼 央	P07
2015 年度メルマガ担当者の紹介		

NAA からのお知らせ

【会費納入のお願い】

NAA では会則により、2015 年度 (2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日) の普通会員年会費として 3,000 円を徴収しています。これらは会報の発行、OB と語る会の開催、見学会等の研修、NAA 賞の授与、NAA サイトの維持その他 NAA の活動に有効に活用されています。こうした NAA の運営に向け、同窓生の皆様のご理解とご協力をいただき、同封の振込用紙にて会費納入をお願いいたします。

(お手数ですが、納入者確認のため、振込用紙には卒業年を必ずご記入ください)

※会費納入がない場合は、今号を最終発送とする場合があります。

【お詫びと訂正】

前号 2015 SPRING の 5 頁「OB と語る会」の記事のなかに一部誤りがありましたので、ここに訂正とお詫びをいたします。

左段 5 行目 「勝田直哉氏」 → 「勝田尚哉氏」

同 13 行目 「建築写真の中でも現場写真を専門とし」

→ 「建築写真の中でもその多くは竣工写真を扱っており」

【新年会のお知らせ】

来年 1 月に新年会を築理会 (工学部建築科 OB 会) と合同で開催する予定です。

詳しくは HP をご覧ください。

【編集後記】

今年の夏は世界各地で観測以来の最高気温を記録したように、まさに酷暑でした。

夏の名物、甲子園では 100 年記念大会を東海大相模が 45 年ぶりの優勝で飾りました。

記念の節目といえば、2017 年に理科大理工学部創設 50 周年を迎え、年度を通して大学の記念事業が行われるようです。

以前からお伝えの通り、野田建築会はその事業の企画および大学事業を支援する準備を進めています。

例えば、各年同窓会の同時開催に向けての連絡網など、徐々に整理を始めています。

つきましては、今後皆様方のご協力をいただく機会が増えるかと思しますので、ご助力の程よろしく願いいたします。

(山崎晃弘 1976 年卒)

今回の号では、裏表紙に目次を入れました。会報では、現役の学生達や卒業生達の活躍を紹介しておりますので、目次をご覧になって、ご興味ある内容だけでもパラパラっと目を通して頂けたら幸いです。また、野田建築会のフェイスブックページも開設いたしました。https://www.facebook.com/nodakenchiku フェイスブックをご利用の方は是非アクセスして、近況などお知らせ下さいませ。

(とりやまあきこ 2001 年卒)

野田建築会会報 VOL.34 2015 AUTUMN

2015 年 10 月 1 日

編集：会報部会 (とりやまあきこ・山崎晃弘)

発行：東京理科大学野田建築会

郵便振替 口座番号 00130-9-27644 東京理科大学野田建築会

お問合せおよびメルマガ登録はこちらから——

<http://www.rikadaikenchiku.com>